



日本政策金融公庫が企画したミャンマー視察に学部長らが参加

【概要】

令和元年 11月26日～30日の日程で、日本政策金融公庫佐賀支店が企画したミャンマー視察に、豊田 一彦 学部長、横尾 寿人 事務長、三島 悠一郎 講師が中小企業佐賀若手経営者の会の皆様と共に参加しました。

【本文】

令和元年 11月26日～30日の日程で、日本政策金融公庫佐賀支店が企画したミャンマー視察に、豊田 一彦 学部長、横尾 寿人 事務長、三島 悠一郎 講師が中小企業若手経営者の会の皆様と共に参加しました。

佐賀県下企業でも労働人口の不足は大きな懸念であり、技能実習生だけでなく高度外国人材の導入の必要性が考えられています。そこで、在ミャンマーの日本政府関係の機関である JICA、JETRO や、NPO、人材派遣企業、日本語学校、IT 専門学校、日本法人の現地縫製工場、ならびにヤンゴン南部のティラワ経済特区開発事務所などを訪れました。各所では、高度人材確保の仕方や企業進出の方法の他、経済事情、ミャンマー人の人柄に関する質問も多く寄せられました。現地で働かれている日本人の方々の印象では、ミャンマー人は温厚かつ仏教に基づいた日本人に近い和の雰囲気がある、とのことでした。その一方、時間遵守の意識は低く、計画立案が苦手などとも指摘されましたが、受入れ側の努力により改善することは可能とのことでした。

また、若いミャンマー人の声を聞く機会として、西ヤンゴン工科大学の学生との交流が行われました。本学部でも近年ではミャンマーからの留学生が増えていることから、今回の視察はミャンマーを良く知るための貴重な機会となりました。

ミャンマーだけではなく、ベトナムなどを含め東南アジア諸国は若い世代のエネルギーが凄まじく、今後の発展が大いに期待される好条件が見られます。理工学部でも東南アジア諸国の大学との交流が活発なので、今回の経験が更なる交流に活かされることが期待されます。



日本語学校を訪問



JICA を訪問